

障がい者と地域との交流会「元気アップ運動会」

● 事業のきっかけ ●

元気アップ運動会は、スポーツを通じた、障がいのある人と地域住民との地域交流事業です。東灘区政60周年記念事業を機に、東灘福祉五団体連合会(※1)(以下、五団体連合会)から、地域団体(※2)に事業へ参画を呼びかけました。

当時、地域団体と障がい者団体との交流はあまりなかったようで、賛同のために五団体連合会が地域団体代表者1人ひとりを訪ねました。また、実行委員会でも、お互いの団体の活動について理解を深めることに多くの時間を費やしたそうです。しかし、その努力の甲斐あり、障がい者団体と地域団体がそれぞれ協力して、毎年「元気アップ運動会」を開催し、現在では、参加者とボランティア合わせて200人も行事となり、6回目を迎えています。

※1 肢体障害者福祉協会、視力障害者福祉協会、聴力言語障害者福祉協会、手をつなぐ育成会(知的障害児<者>親の会)、重度心身障害児(者)父母の会
※2 魚崎・魚崎南ふれまち、北部・南部民生委員児童委員協議会、婦人会、魚崎町協議会

● UDのポイント・地域特有の取組 ●

会場は、魚崎小学校の体育館。競技は、障がい者も子どもも高齢者も大人も皆が参加できる競技で構成されています。今年は、パン食い競争、人を借り出す「借り者競争」、大きな輪に円盤を投げ入れるフライングディスクなど。地域の子もたちや高齢者、障がいのある参加者は、必要に応じてボランティアの助けを借りながら、競技を楽しんでいました。

このほか、プログラムには地震に備えるシェイクアウト訓練も。外では、ふれまち(防コミ)による炊き出しが進み、昼休みに会場全員に、カレーライスが振舞われました。

また、参加障がい者の家族負担が軽くなるよう、加えて競技中の転倒防止の安全面からも、神戸国際大学の防災救命クラブの学生が参加者の付き添い支援を担当。学生本人たちからもよい経験との声を聞きました。このほか、魚崎中学校ハートプロジェクトの生徒も競技や大会運営で会場を駆け回っていました。

● 期待されるUDの効果 ●

「地域で、スタッフを含め参加者同士が顔の見える関係になってきていることがうれしい。こんな交流が、区内、市内にも広がってほしい。」と五団体連合会の代表者。障がい者の保護者からは「健常者の動きを見ることは本人にいい刺激。できるだけ参加したい。」との声も。ふれまち委員長は「これまで障がい者と交流がなく、実際に会って交流する運動会は、いい場だと思っている。ここで得られる経験は、地域活動に生きていく。」とも。運動会を通じて、地域住民の相互理解が進み、安心して楽しく暮らせるまちづくりにつながっていきます。



みんなで体操して始めます



フライングディスクの順番待ち



カレーの準備中

<魚崎・魚崎南ふれまちの

人を巻き込む工夫>

両ふれまちエリアは、ひとつの防災コミュニティエリア(以下、防コミ)で、防コミを中心に、両ふれまちが活発に地域活動に取り組んでいます。ここでは上手に人を巻き込んでおられ、その工夫の一部を紹介します。

- ①〔若手の確保〕防コミメンバーに「市民消防隊長」を新設。自治会から、代表の会長に加え若手を動員。
- ②〔楽しみ〕会合の後にちよい飲み会

を必ず設定。

③〔活動にメリハリ〕活動テーマを決める。平成27年度「女子力の活用」で広報担当に女性を抜擢。

④〔継続の工夫〕メンバーのやりとりを保つために、1~2か月に1度の行事実施が大切。

⑤〔人材育成〕中学生ボランティアがふれあい喫茶などで活躍!とにかくあれこれ手伝いさせます。喫茶も活気が出て参加者増の相乗効果!



今回で6回目、1回目の時はお互い大変だったと思います。しかし、今は、障がい者と地域(学生から大人まで)がとけあい、協力しながら運動会を盛り上げているのがよくわかりました。また、地域の取り組みの中で、若人の意見を積極的に取り入れる仕組みを作り、地域の活性化を図られているのが印象的でした。(K)

ユニバーサルデザイン(UD)ってなんだろう?

わたしたちのまちには、赤ちゃんから子どもや成人、お年より、男性・女性、外国人、車いすを利用する人、視覚障がい者、聴覚障がい者、そのほか外見ではわかりにくい障がいをお持ちの方、妊産婦、ベビーカーを押す人などいろいろな人が暮らしています。

ユニバーサルデザイン(UD)とは、こうした年齢、性別、文化、身体状況など、人々が持つさまざまな個性や違いにかかわらず、最初から**誰もが利用しやすく、暮らしやすい社会となるよう、まちや建物、もの、しくみ、サービスなどを提供していこうとする考え方**のことです。

UDは、ものづくり、まちづくりなどのハード整備を中心に考えられがちですが、日ごろからUDの視点を意識しておくこと、その意識を具体化するためのしくみを整えることも重要です。

神戸市では、このような考えから、UDの「意識づくり」、「しくみづくり」、「まちづくり」、「ものづくり」に取り組んでいます。



地域で実践するユニバーサルデザイン

地域で実践するUDの視点に基づく活動例

1 世代を超えて交流する活動 (年齢に関係なく)



2 地域の外国人との国籍を超えた多文化交流、または多文化理解を促す活動 (国籍、文化に関係なく)



3 障がいのある方(団体)が活躍できる場の提供、障がいにかかわらず共にできる活動、障がいへの理解を深める活動 (身体状況、さまざまな個性や違いに関係なく)



4 高齢者、子ども、外国人、障がい者、妊婦さん等が参加しやすい工夫をした活動、お互いの助け合いをすすめる活動 (誰もが暮らしやすい社会となるために)



上の活動例のほかにも、組み合わせ方、アイデア次第で、もっとたくさんの活動が「UDの視点に基づく活動」と言えると思います。また、UDは何か新しい考え方というのではなく、既に地域で実践されている活動の中にもたくさん見つけられます。ちょっとした工夫を加えることで、より多くの方に配慮した活動や取り組みに変わるものもあります。

こうした活動を長く続けること、多くの方が参加していくことで、みんなが楽しく暮らせる環境が整い、その輪が広がり、全ての人が持てる力を発揮し、支え合うユニバーサル社会が実現していきます。

こうした輪が広がり、ユニバーサル社会が実現するよう、この冊子では、ふれあいのまちづくり協議会(以下、ふれまち)の取り組みをご紹介します。